



佐賀瀬川横穴古墳群

昭和五三年二月 村重要文化財（史跡）指定
所在地 新鶴村大字佐賀瀬川字向山四二一九
所有者 村松繁稔、渡部富雄氏

佐賀瀬川部落の北、標高三〇〇メートルの向山中腹に九基の横穴古墳群がある。この古墳群は七世紀末頃の古墳時代末から奈良時代にかけてのもので、環頭の直刀一振と鉄斧一個が出土している。また人骨が一基から四〜五体分位出土しており、古墳が単に首長だけではなく、家族等が追葬されたことがうかがわれる。

この古墳群は、昭和三十一年の水害に見舞われた際、山崩れで表土が崩れ落ちたことにより発見された。このために、横穴古墳特有の墓前域、羨道部、玄関部等が失われている。

奥行き一、五五メートル、一、九五、幅一、七メートル

高さ一、五メートル前後、奥壁に高さ八センチ、幅六六センチの凹みを設けてある。



石棺埋蔵地

昭和五三年二月 村重要文化財（史跡）指定
所在地 新鶴村大字立石田字北長尾乙四
管理者 唐澤正義氏

長尾原にも古墳時代後期（六〜七世紀頃）の円墳があったが、今では畑地造成でほとんどが失われてしまった。

昭和二六年、長尾原北東端にあった「大壇」と呼ばれる径一〇メートル、高さ二メートル程の円墳を整地した際、地下三〇センチ程の深さより石廊が発見された。

この石廊は野面石を組み合わせた長さ一・七四メートル、幅五二〜三二センチの寝棺で、枕部の方が広くなっている。枕石の上にはほぼ完全な形で頭骨が残っており、一緒に直刀が出土している。また、付近の数多くの古墳が整地された際に直刀4振模造勾玉や高杯、須恵器等が出土している。

なお、現在この石廊は覆土されて保存されている。

大壇の石廊